



知覧武家屋敷寺師邸を核とした 稼ぐ観光拠点整備事業

—新しい地方経済・生活環境創生交付金事業の効果検証について—

商工観光課

01. 事業の背景



原状

- ・ 知覧武家屋敷地区には、国内外から年間約10万人の観光客が訪れているが、市内宿泊者は約 1 割、市内滞在時間は約半日であり、観光消費額が低い。
- ・ 観光を担っている人材の高齢化が進んでいる。

取り巻く環境

- ・ R5年 7 月に「南九州市文化財保存活用地域計画」が認定され、文化財の保存・活用が求められている。
- ・ 南九州市DMOが始動し、多様な関係者と連携しながら地域の稼ぐ力を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりを目指している。

※観光消費額：観光客が市内で宿泊・飲食・買い物・交通・体験などに使ったお金の合計額。観光による地域経済への効果を示す代表的な指標です。観光客の人数が増えるだけでなく、地域でどれだけお金を使っていたかかを調査します。観光消費額が増えると、宿泊施設や飲食店、小売店など地域事業者の売上につながり、地域経済の活性化にも結びつくと考えられます。

※DMO（観光地域づくり法人）：地域全体の観光を盛り上げるために、行政や民間事業者と連携して取り組む組織です。地域の魅力を発信したり、観光客の受入体制を整えたりしながら、観光による地域の活性化を目指します。南九州市DMOは、R7年12月に一般社団法人を設立し、事業開始しています。

02. 事業概要

目指す将来像

- ・ 知覧武家屋敷地区に宿泊、飲食、特産品販売、観光体験提供の拠点を整備することにより、観光消費額の拡大、観光客入込数の増加、雇用の創出など地域経済の活性化を目指す。
- ・ DMOが近隣施設との連携・調整を図りながら効率的な施設運営を行うことにより、業務の効率化、人手不足の軽減など持続可能な観光地域づくりの推進を目指す。併せて、DMOが観光地域づくりの司令塔となり、交流人口の拡大、地域活性化を推進し、観光が地方創生の原動力となることを目指す。

事業計画

年度	宿泊施設	飲食等新規店舗	外構	効果拡大
R7年度	宿泊施設の改修	実施設計	実施設計	
R8年度		店舗の新築	外構の整備	動画・リーフレット作成

02. 事業概要

計画地位置図



03. R7年度事業内容

宿泊施設の改修

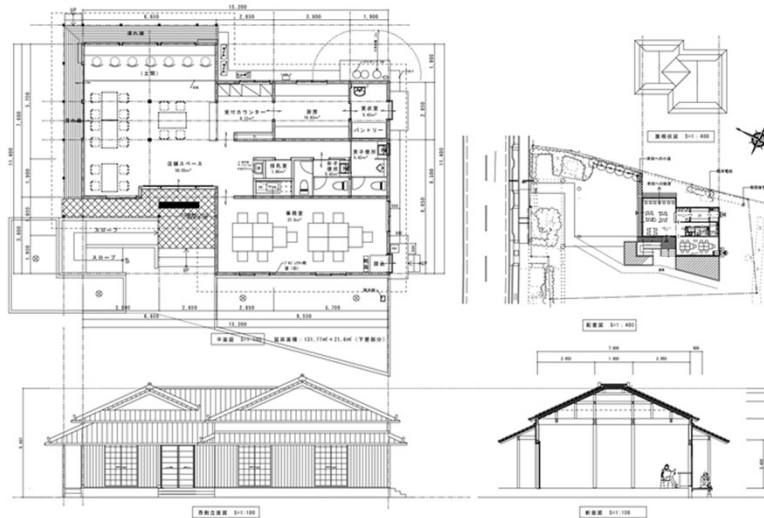
- ・ 知覧武家屋敷地区内に所在する市所有の既存建物「旧寺師邸」を改修し、一棟貸宿泊施設として整備した。江戸時代を彷彿とさせる周辺環境と調和した和風の宿泊施設として特色ある整備を行うことで、より地域の文化や暮らし、風景を体感できるものとし、国内だけでなく海外からの需要も取り込みを目指す。
- ・ 知覧麓の宿「翠風（すいふう）」として、R8年6月1日開業。運営は南九州市DMOが行っている。



03. R7年度事業内容

飲食等新規店舗・外構の実施設計

- ・旧寺師邸敷地に、近隣施設利用者の需要を取り込んだ朝食提供、特産品である「知覧茶」をメインとした飲食、買い物、体験提供ができるスペースを持つ店舗の新築に向け、実施設計を行った。「朝から営業している知覧茶カフェ」として特色ある運営を予定している。
- ・駐車場、店舗エントランス、歩道等の外構等整備に向けた実施設計を行った。整備にあたっては、周辺景観に配慮した形で実施する予定である。



04. KPIの達成状況・昨年度の評価と課題

KPIの達成状況

項目	事業開始前	R7年度 目標値/実績値	R8年度 目標値	R9年度 目標値
市を訪問する観光客の観光消費額単価	7,607円	7,607円/4,283円	8,107円	8,607円
一棟貸宿泊施設の売上額	0円	0円/0円	1,800千円	2,720千円
飲食等新規店舗の売上額	0円	0円/0円	0円	9,990千円
知覧武家屋敷庭園の有料庭園入込数	98,940人	98,940人/92,255人	99,120人	99,620人
新規雇用者数累計	0人	0人/0人	1人	3人

昨年度の評価と課題

昨年度は、宿泊施設の整備及び店舗・外構の実施設計を行った。国の重要伝統的建造物群保存地区における事業実施にあたっては、景観保全と地域資源の活用との調整に多くの時間を要したものの、概ね計画どおりに進捗した。

昨年度は宿泊施設の整備が完了した段階であり、R8年度からの活用開始であることから、R7年度のKPI実績値には事業成果が反映されていない。今後は、南九州市DMOと連携しながら、KPIの達成及び事業効果の拡大に向けて取り組むたい。